



■夏に向けて……勉強や部活のペースを定着させて授業最優先の学校生活を

栄進祭が成功裡に終わり、級友や先輩・後輩の新たな一面が垣間見えたことと思います。今週から通常日課となります。切替をしっかりと行い、授業最優先の学校生活を送りましょう。◆マスク着用や黙食、適度な距離をとる等の新しい日常は今やすっかり定着した感があります。夏に向けてこれから暑さも本格化します。コロナへの備えとともに熱中症対策など、体調管理も十分に行いましょう。◆今号では、『進路の足跡』の読み方をお届けします。『進路の足跡』を活用した進路学習は、2年次生は11日(金)6限、1・3年次生は16日(水)7限に実施予定です。

■『進路の足跡』を読む……先輩たちの進路から自己の進路をみつめる機会としよう！

令和3年度版『進路の足跡』が仕上がりました。先輩たちの入試結果を参考に、現在の自分と照らし合わせながら進路探しを行ってほしいと思います。特に「合格体験記」(35～54ページ)には、先輩たちのさまざまな体験が語られています。もしかしたら、そこには皆さんのこれからの姿があるかもしれません。どのように努力して勝ち取った大学生活なのかを知り、これからの高校生活に活かしてほしいと思います。

◆巻頭言「志高く、粘り強く、自らの道を切り拓く」 校長先生……………1ページ

◆進路概況……………4・5ページ

ここには牛久栄進高校の歴史が詰まっています。本校は、1987(昭和62)年に開校し、今年創立35年を迎えます。進学意識の向上、生徒一人一人の地道な努力の積み重ねが現在の牛久栄進高校を築き上げたのです。

◆過去5年間の受験者数・合格者数(現役生)……………6・8ページ

先輩たちがどのような大学を受験し、どれくらい合格しているのかを見てください。前号(4月30日発行)でお伝えしたとおり、難関大学の合格率は決して高くないことが分かると思います。栄進生の多くが進学したいと考える県内国公立大学の合格率は、茨城大学53%、茨城県立医療大学47%、筑波大学37%、私立大学では、東洋大学43%、法政大学17%、千葉工業大学40%、日本大学45%となっています。

栄進高の特徴として、「国公立大学は地元志向と全国展開」、「私立大学は首都圏中心」が挙げられます。国公立大については、県内3大学(茨城大・筑波大・茨城県立医療大)の占める割合は、受験者数、合格者数ともに全体の35～45%(年度によって異なりますが平均40%)です。地域別では、関東地方を中心に、北は北海道から南は沖縄県まで、全国にまたがっています。私立大学については、通学可能な常磐線やつくばエクスプレスの沿線、東京23区内とその近郊など、首都圏に位置する大学が中心となっています。また、オーストラリアなど海外の大学に進学した先輩や防衛大学校や防衛医科大学校、看護大学校、水産大学校など文部科学省管轄外の大学校に入学し、活躍している先輩もいます。

◆過去5年間の大学等(学部・学科別)合格者数……………9～19ページ

過去5年間に合格者の出た大学の学部・学科について、その合格者数を現役生と過年度卒生(浪人生)に分けて表記しています。過去5年間全ての年度で合格者が出ている国公立大学の学科は6つです。茨城大学人文社会科学部現代社会・法律経済・人間文化の3学科、同大学工学部機械システム工学科、同大学農学部食生命科学科、そして高崎経済大の経済学部(募集時は学科なし)です。

栄進高は8クラス規模の学校としては浪人生の割合は低い方ですが(3年前までは毎年10%程度でしたが、近年は低下傾向。2019年10.9%、2020年6.1%、2021年5.8%。県内高校では30%超の学校もある)、2021年度入試では、東北大・茨城大・琉球大、東京理科大、早稲田大などで浪人生が合格の栄冠を勝ち取っています。

◆**評定平均値と大学合否比較**.....20～32ページ

皆さんにとって、一番気になるところでしょう。3年次前期までの「評定平均値」と大学合否を比較してみました。評定平均値は良いに越したことはありません。1・2年次はじっくり学力を蓄えたいところです。授業最優先の学校生活を送るとともに、家庭学習の習慣を確立し、確かな学力を身につけたいものです。今の自分の評定平均値だと、どのような大学を受験しているか、その合否状況も知ることができます。参考にしてください。ただし、結果を都合よく見ないようにしましょう。確かに、低い値でも思いがけない大学に合格している場合もあります。その先輩は、最後まで一生懸命勉強し、急激に成績が向上したのか、あるいはたまたま勉強したところや得意な分野が入試で出題されたのか、そこまではこの資料から判別できません。

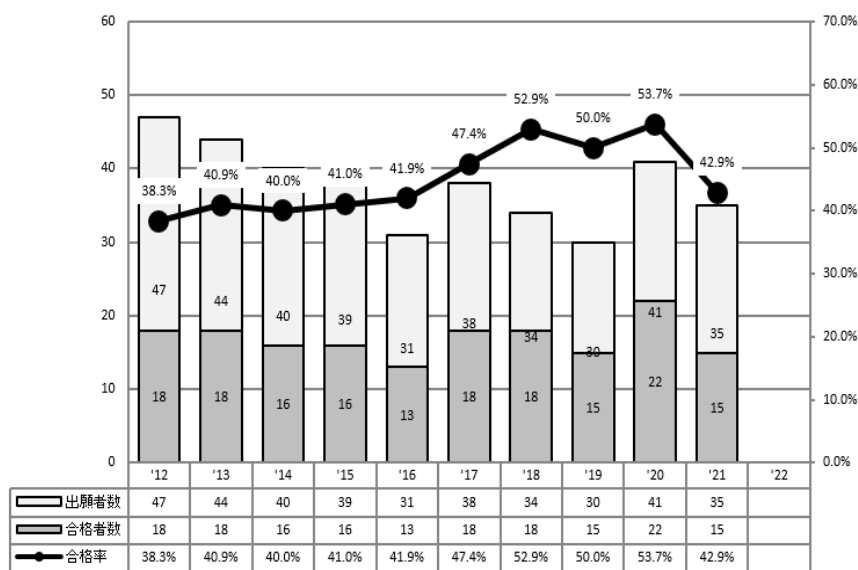
◆**推薦入試状況**.....33～34ページ

2021年度入試から右表のように大学入試改革の一環で、AO入試は総合型選抜に、推薦入試は学校推薦型選抜に名称が変わりました。推薦入試にチャレンジした人はいずれもそれなりの学業成績を取っていますが、それだけではありません。部活動やボランティア活動、学校行事でのリーダーシップ、大学の模擬授業への参加など、積極的に高校生活を送っていました。推薦を考えている人は、いろいろなことに早いうちからチャレンジしておきましょう。また、「県内国公立大の推薦合否状況」や「昨年度の指定校一覧」も載せました。参考資料としてみてください。指定校は毎年見直しが行われますので、今年度以降も継続するのかは未定です。

	総合型選抜	学校推薦型選抜
	(旧AO入試)	(旧推薦入試)
出願	9月1日以降	11月1日以降
合格発表	11月以降～3月末	12月以降、一般選抜期日の10日前まで
募集定員	制限なし	学校等の募集定員5割未満

栄進高は、毎年、国公立大の学校推薦型選抜、総合型選抜入試で合格者が出ています。右図のように受験者が多いので合格率は高いとはいえませんが、2021年度入試では、学校推薦型選抜で12名、総合型選抜で3名の合格者が出ました。昨年度まで公立大の横浜市立大と東京都立大からは、本校のこれまでの実績が認められ、他県でありながら、指定校推薦枠がそれぞれ1名ずつありました。入学した先輩方が勉学に励み、その頑張りの恩恵とも言えます。ただし、今年度もそうなるかはわかりません。公私立問わず、昨年度、枠が認められたから今年度も栄進高が指定校となる保証はありません。指定校をあてにして学習を進めてはいけません。指定校は1年限りのものと考えてください。

栄進生の国公立大学総合型・学校推薦型選抜出願者数と合格者数／合格率



今年度もそうなるかはわかりません。公私立問わず、昨年度、枠が認められたから今年度も栄進高が指定校となる保証はありません。指定校をあてにして学習を進めてはいけません。指定校は1年限りのものと考えてください。

◆**合格体験記**.....35～54ページ

理系クラスから11名、文系クラスから9名の先輩が新生活を始める忙しい中、皆さんのために筆を執ってくれました。合格しての感想、志望校決定の経緯、日々の授業への取組、部活動との両立、夏休みなどの長期休業中の過ごし方、自分に合った勉強法、模擬試験の活かし方、お勧めの参考書・問題集、後輩へのアドバイスなど、内容は多岐にわたります。取り入れられそうなことは積極的に取り入れて実践してみたいかがでしょうか。